

A……01

## 嵯峨越畑北ノ町 シラカシ



嵯峨越畑北ノ町

高さ 23.0m

幹周 3.64m

ぶな科 / 常緑高木

1657年に建設された家屋は、京都市登録文化財に指定されていて、シラカシやサザンカをはじめ、多くの大木がとりかこんでいます。このシラカシは敷地北側の谷に沿って植えられています。扇状に広がる雄大な樹冠の大木が2本連なっていて、家を建てる以前からあった樹木を防風の目的で利用したものとも言われています。建物とよく調和して素晴らしい景観をつくっています。

A……03

## 嵯峨越畑北ノ町 サザンカ



嵯峨越畑北ノ町

高さ 3.0m 幹周 1.08m

つばき科 / 常緑小高木

建物の建設時からのものと言われていて、可憐な花を毎年咲かせています。

A……02

## イチョウ 嵯峨越畑北ノ町



嵯峨越畑北ノ町

高さ 19.0m

幹周 4.35m

いちょう科 / 落葉高木

かつてはこの地の東に社があり、このイチョウの大きな根をまたぐと病気が治ると言われ、病気の回復を願って多くの人が参拝しました。このイチョウは雌株で、毎年たくさんの銀杏の実をつけます。幹周りは4mを超える大木に育っていて、その樹齢は相当のものと推定されます。周辺の景観とあいまって歴史を感じさせてくれます。

## イチョウ

いちょう科

中国原産の落葉樹。秋の黄葉が美しく、日本では古くから社寺の境内などに植えられ、親しまれてきました。生育は旺盛で、病害虫も少なく、暑さや乾燥などにもよく耐え、寿命も長いので、街路樹として多く使われています。

樹形が円錐形に

整い、町並みに

統一美をも

たらすので、ピス

タ(見通しの景観)を

強調する道路に使われています。

